

様式（第3条関係）

東京都とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	東京都練馬区東大泉 1-17-3
園名	ベネッセ大泉学園保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

木育

<テーマの設定理由>

園庭があり、散歩に行った先でも自然物を拾って制作等で活用しているが、身近な木を素材として扱ったことがなく、木を使った制作を通し、木に親しみより遊びが発展するのぞと思ひ、木育をテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

7/24 かなな屑プール。好きな形の木を選び、色を付けたり、くっつけたり、穴を開けたり、木の感触、におい、性質に触れる。
10/15 かなな屑プール。木を好きな形に切ったり、くっつけたり、自分の思い描くものを形にしようとする。
1/21 かなな屑プール。ポスターカラーの色を増やす。塗る、くっつけるをメインに

3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

園庭で行うための日よけ、室内の時はホール
大きなシートを広げ、その上で色を塗ったりくっつけたり作ることを楽しむ。
端っこに木を付けるためのコーナーと、木を切る・穴を開けるコーナーを設置。
他、木で枠組みを作り、かなな屑を入れプールのようにして、においや感触を楽しむコーナーも作る。
木の色塗りは、主にポスカを使用。

<活動の内容>

- ・木に色付けしたり、くっつけたり穴を開けたりして、形を作ったり、想像したものを作る。
- ・かなん屑プールに入って、感触やにおいを楽しむ。
- ・木琴のようなものを木でたたいて、音や感覚を楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・普段使わない木片を前に、好きな形の木片に色を塗る、穴を開けることがほとんどだったが、回を重ねるごとに形を考えてくっつけたり、色を塗ったり何かを作ることを目的とする姿が多くなっていった。子どもたちも木の感触や形作ることを楽しみつつも、においも楽しんでおり、「いい匂い」と木によっての違いも楽しんでいた。
- ・ポスカについても、この色が欲しいと理想とする色や形が明確になっていったようだ。
- ・何を作ったのかを聞かなくても、自分の作品がどれで、何を形どっているものなのか、どうやって作ったのか、これから何を作りたいのかを説明してる姿が多かった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た職員の気づき>

・子どもたちの発想の豊かさに驚かされるばかりだった。大人がテーマ等を伝えなくても、素材を手に取り、観察し、そこからインスピレーションを受け黙々と作り続ける姿があり、楽しいからやりたいからやっている活動への集中力はすごいものがあるのだなと思った。子どもが「夢中になれる」ということを日頃から意識して保育を行っているつもりだったが、夢中になるとはこうした姿なのだということを目にすることができた。今回は木育の中での”夢中”な姿だったが、日々の保育でも”夢中”になれることがあれば、そこから学ぶことも増えていくのだろうと思った。道具の使い方、数字や文字の読み方等を教え込まなくても、夢中になれる遊びの中で学び習得していくことが、幼児期の育ちに必要なのだと改めて職員の気づきになった。